

『レースの難しさを改めて知った最終戦』



シリーズ名: 2025 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名: 2025 AUTOBACS SUPER GT Rd.8 「MOTEGI GT 300km RACE |

レース距離:1周1周4.801km×63周(302.5km)

11月 1日(土) 天候:晴 コース状況:ドライ 公式予選: GT500 クラス 11位:1'36.681

最終戦の舞台はモビリティリゾートもてぎ。全車サクセスウェイトを下ろしたイコールコンディションの下、選手権獲得の可 能性がある6台がひしめく中、19号車は一矢報いるためにも表彰台の頂点を目指し、爆走を誓う。

【公式練習】

午前の公式練習は、前日の雨の影響で序盤はウェット、途中からドライへと変化するコンディション。19 号車は低い気 温・路面温度に苦慮しつつ、予選に向けたセットアップに終始。

混走および専有走行時間に、国本選手・阪口選手ともに 13 周を走行し、阪口選手(USED 品)で 1'37.774 が ベストラップとなった。順位は 14 位だったものの、トップから 14 位の 19 号車までのタイム差は 0.767 秒と僅差で、予 選および決勝の激戦が予想される状況となった。













































占有走行では 19LAP の中古品でまずまずのタイムだったので、予選への手ごたえはかなりあった。

【公式練習】

予選開始直前、曇天の合間から青空がのぞき、コースは一気に明るさを増す。Q1 直前の気温は 22 度、路面温度は 24 度といずれも低め。

Q1 は国本選手が担当。早めにコースインする車両が出る中、開始 2 分でコースイン。路面温度が低いことから、ウィー ビングを織り交ぜてタイヤに熱を入れながら周回を重ね、4 周でアタックに入った。

結果は 1'36.681 で暫定 11 位。そのまま 11 位でセッションを終え、Q1 敗退となった。

Q1 結果: 1 - 24 - 38 - 23 - 3 - 64 - 100 - 8 - 16 - 12(以上 Q1 通過) - 19 - 39 - 14 -37 - 17

Q2 結果: 38 - 1 - 23 - 12 - 3 - 24 - 100 - 8 - 16 - 64

































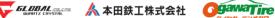


























【予選終了後 坂東監督コメント】



『路面状況が想定と異なり、タイムが出ませんでした。ただ悔しいだけです。 明日の決勝は、2025 年最後の集大成にふさわしいレースを、そして表彰台へ向け爆 走していきます。

皆様の応援、宜しくお願いいたします。

必ず全員笑顔にします。』













































11月2日(日)天候:晴/晴 コース状況:ドライ

決勝: GT500 クラス 11 位

曇り空のモビリティリゾートもてぎで行われた最終戦。全車サクセスウェイトを下ろしたイコールコンディションの下、年間チャ ンピオンの権利を持つ6チームが争う一戦となった。

19 号車は選手権争いからは外れたものの、有終の美を飾るべく表彰台の頂点を目指して爆走を誓う。

【ウォームアップ走行】

曇り空のモビリティリゾートもてぎで行われた最終戦。全車サクセスウェイトを下ろしたイコールコンディションの下、年間チャ ンピオンの権利を持つ6チームが争う一戦となった。

19 号車は選手権争いからは外れたものの、有終の美を飾るべく表彰台の頂点を目指して爆走を誓う。

【決勝】

スタートドライバーは国本選手。スタート直前の気温/路面温度は 20 度/22 度で、前日の予選よりも低い。

午後 1 時、栃木県警の国産スポーツカーのパトカーと白バイによるパレードランを実施。コース上に停止した GT300 車 両の処理を経て、フォーメーションラップ1周の後、レースがスタートした。

11 番手スタートの国本選手は、オープニングラップの混戦で 16 号車に先行を許し 12 番手に後退。その後は 2 位か ら 15 付までが等間隔で周回を重ねる展開となる。

7 周目、5 コーナーで GT300 同士の接触が発生し、8 周目にマシン回収のため FCY 導入。19 号車は 12 位のま ま。9 周目に FCY 解除後、39 号車をパスして 11 位へ浮上するが、10 周目に右フロントを破損して 12 位に後退し、 ペースダウンを強いられる。12 周目には 24 号車に先行され 13 位に。

14 周目以降、後方の 17 号車、37 号車に攻め立てられ、16 周目に 17 号車、続いて 37 号車にパスされ 15 位に 後退。

レースの 3 分の 1 を過ぎた 22 周目、各車が 1 回目のルーティンピットを開始。19 号車もピットインし、フルサービスを 実施してドライバーを阪口選手へ交代。暫定 15 位でコース復帰。

37 周目、最後までピットに入っていなかった 37 号車が作業を終え、全車 1 回目のピットを消化。19 号車の順位は 14 位。38 周目の V 字コーナー立ち上がりで 24 号車に並ばれ、ヘアピン入口でインを差され 15 位となる。

フロントエアロの破損で思うようにペースが上がらない中、阪口選手は懸命のドライブで一つでも順位を上げるべくマシン にムチを入れ、爆走を続ける。

残り8周、14号車の接触に伴うデブリ回収で FCY 導入。直ちに解除されると、ペースの落ちた14号車、64号車が 前方に。残り 3 周で 64 号車をパスして 14 位、ファイナルラップで 14 号車をパスし、さらにメインストレートでペースダウ ンした 17 号車もかわして、19 号車は 12 位でチェッカーを受けた。

※レース後の車検にて 12 号車が失格となり、19 号車の順位が 1 つ上がり、結果、11 位となりました。

レースは、3 番手スタートの 1 号車がオープニングラップでトップに立つと、ピット戦略でタイヤ無交換を選択した 100 号



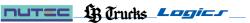








































車が一時トップに浮上。しかし 29 周目に 1 号車が事実上のトップに復帰。中盤以降は 2 位の 12 号車が 44 周目 から追撃を開始したものの、1号車が振り切って優勝。シリーズ3連覇を達成した。

※レース後の車検にて12号車が失格となり、2位以下の順位が繰り上げとなりました。

決勝結果:1-23-100-39-37-8-38-16-3-24-19-64-17-14(以上 完 走) - 12







































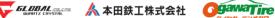
























決勝コメント 【坂東監督】



『前半の接触で勝負権を失いました。悔しいレースでした。

みんなを笑顔に出来なくて申し訳ないです。通常の作戦はミニマム PIT IN からのアン ダーカットで前に行き後半は前半と違うタイヤを履きプッシュするような展開を描いていま した。エアロバランスが崩れペースを上げる事が出来ませんでした。

必ずこの悔しさを忘れずに、2026 開幕に向けて今から準備します。

必ず社員、ドライバー、スポンサー、ファンを笑顔に出来るように努力しますので期待して ください!

2025年のチーム成績は、ポールポジション1回(Round.3 マレーシア)、5位2 回 (Round.3 マレーシア、Round.7 オートポリス) を含む合計 36.5 ポイントでし た。あの時もしこうなったらポイントは稼げたとか色々あったシーズンですが勝てるまではも っと努力をしないといけません。

年間を通じてスポンサー各社、そしてファンの皆様の温かいご声援により、無事にシリー ズを戦い抜くことができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。』

【国本選手】



『O2 に進むことができず、残念な予選でした。フリー走行の感じからカットギリギリの戦い になることは予想していて、O2 にバトンを繋げたいという一心でアタックしました。ミスもな く良いアタックでしたが、僅かに足らず予選 11 位となりました。

決勝は自分の判断ミスで 300 クラスと接触し、エアロパーツが破損して大きく遅れをとっ てしまいました。それまでは燃費セーブしながら上手く戦えていてポイント獲得のチャンス があったので、とても落胆していますし、チームに申し訳なく思っています。

今シーズンをしっかりと分析して次に繋げられるようにしていきます。応援ありがとうござい ました。』





















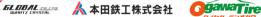
























【阪口選手】



『予選日はフリー走行からあまりスピードがなく、新規コンパウンドをレースウィークの路面 で扱うのが少し難しく感じました。予選にむけてセット変更を行いましたがうまくいかず 11 位となりました。決勝はセカンドスティントを担当しました。ファーストスティントで不運な接 触があり、フロントのエアロを失っていましたが、チョイスしたタイヤが良く安定したペースで 走ることができました。終盤3台の前に出ることができましたがポイント獲得には至りませ んでした。

今シーズンは決勝でのタイヤ選択や、レース戦略などで苦戦してしまい課題の多いシー ズンとなりました。ただ一昨年のような一発のスピードが戻ってきたということは良かったと 思います。今年の反省を来年以降に繋げていきます。

今シーズンも応援ありがとうございました。』

2026の体制はまだ何も発表出来る事はないですが本気で全て取り組みます。 皆様の応援、誠にありがとうございました。

SUPERGT

https://supergt.net/pages

BANDOH

http://www.bandohracing.com/































